

金星会

No. 10
発行
神戸市須磨区横尾9丁目5番1号
TEL 741-1501(代)
FAX 741-1512
啓明女学院内
金星会

永遠に輝やく母校「啓明」に!



同窓会会長
渡邊 カナコ

金星会会員の皆様には、御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。
私達の母校「啓明」は、来年初立八十周年を迎えるにあたり、今井鎮雄理事長、中島貞夫前院長を始め理事の皆様、関西学院関係者各位の絶大な御尽力の下に、二十一世紀にふさわしい、さらに高度なキリスト教主義による豊かな人間形成とグローバルな知的教育の場を目指して、大改革の為に着々と準備が進められてまいりました。そして今年四月から、啓明女学院中学校は、関西学院大学として十年一貫教育の男女共学の啓明学院中学校に改組、好調なスタートを切りました。七十九年間の女子生徒のみであった女学院に今春、可愛い中一の男子生徒五十七名が入学いたしました。

啓明学院中学校・啓明女学院高等学校校長には昨年四月に、関西学院高中部長の要職につかれていた尾崎八郎先生をお迎えすることが許されました。尾崎校長先生は御就任以来、学院内外多方面に亘り東奔西走、実に意欲的精力的に、精神は勿論、組織構造、施設、対外面等で、刷新開拓を進め、健学の精神に基づいたよりレベルの高い啓明への飛躍に、情熱を傾け愛情をもって取り組んでこられました。この校長先生を中心に教職員の皆様も一丸となって燃え、高邁な教育理念の実現に向かって心血を注いでおられます。従来の啓明女学院高等学校は、さらなる教育内容の充実を図りつつあり、関西学院大学協定校として十八名の推薦入

2003
関西学院大学継続
啓明学院中学校
Hands and Hearts are trained to serve.

2003年度
中学校入学案内より

世界を創ればよいかを考へ始められた世紀です。それは神の意志と愛の業を具現するものであり、人は他の人と共に生きる事を最も大切に考へる

啓明女学院 同窓会の皆様へ

理事長 今井 鎮雄

ランバス父子がアメリカ・南メソジスト監督教会から大事な使命を担って来日され、関西学院をはじめ、広島女学院、聖和大学等と同時にパルモア英語学院を設立しましたが、啓明女学院は、このパルモアの女子部にあたります。ハランド

如何に母校が素晴らしい変身を遂げつつあるか、詳しくは当会報の各記事をお読み下さい。色々とお骨折りで下さいます。理事長、諸先生方に、深い感謝を捧げ、心より御礼申し上げる次第でございます。ここに至りましたのも、一切が必然の、深遠なる神のみ心と妙な導きによるものであり、篤い感謝の祈りを捧げます。さて現在から未来に亘って行われる母校の教育改革を具現化していく為には、経営基盤の強化が不可欠であります。同窓の皆様には、これ等の諸事情をご理解いただきまして経済状況の厳しい中ではございますが、母校のさらなる発展の為に、当会報四面に記載の「啓明女学院創立八十周年記念募金」に是非とも御協力下さいませよう何卒よろしくお願い申し上げます。皆様一人一人の愛の御援助が、母校「啓明」を大きく支える柱の一つになりますことを願っております。

それでは、十一月十六日の総会でお会い出来るのを楽しみにしております。

戦争中に名前を「啓明」と名づけ、暁の明星とおなじく、世に輝く人の出ずる事を願いつつ歩んでおり、キリスト教精神を基に英語教育を中心に据えて、多くの有能な婦人を新たな社会へ輩出してまいりました。創立六十周年には、三宮を離れて現在の須磨の地へ移転しました。

さらに二十一世紀を迎え、よりキリスト教的使命と役割を実現するために、本年度から男子生徒も中学一年生を迎え、中・高一貫のキリスト教的全人教育を進めるとともに、さらに高等教育を関西学院大学へ継ぐことにより、十年間の教育計画で人材を新しい社会へ生み出すことになりました。

二十世紀は人間が豊かになろうととしてあらゆる生産と効率を追求しましたが、二十一世紀は人間の豊かさを補完するた

七十九年目の変身



校長 尾崎 八郎

七十九年前には男子ですら、中学生や高校生である事は特権であり憧れの的でした。日本最大の貿易港の地位を常に横浜と競ってきた神戸の地に、啓明女学院(パルモア女子英学院)は、ミッション・スクール(使命を持つ学校)として創立されました。当時の日本は不景気と自由の中で、初めて世界の大国扱いを警戒的にされ、岐路に立たされた時でした。啓明女学院はそのような時に建てられたミッション・スクールだったのでした。

今、わたしたちの学院は、建学の精神と建学の意気に立ち返り、この時代に使命を持つ学校として立ちたいと願っています。当時はキリスト教の精神に満たされた自立した女性の育成を目標としました。今は自立した人間の育成ということになるでしょう。この学院に学ぶ一人ひとりが、豊かな師友の交わりに恵まれ、この学院で本気に学び、その生涯を神様への畏敬と感謝に満たされて、隣人への思いやりと奉仕の心を持って生きることになりません。同窓生の間に脈々と受け継がれてきたように、隣人を損なうのではなく、伴わせに関わるように生きたいものです。このような美しい伝統に立つ女学院は、同根の関西学院との教育協

定により新しい歩みを始めました。キリスト教の精神を土台とした人間形成は勿論ですが、高度な知的技能と世界性が求められている時代に応えて、高度な全人の発達を目指したいと願っています。

女学院高校については、そのための諸施策を実施中です。来春からの募集生徒数は二百三十名に限定します。また今春から共学募集を開始した学院中学校は、百九名の新入生を迎えました。

この度の学院創立八十周年記念事業に際しましては、御支援について、金星会に色々ご苦労をおかけしているようで、恐縮感謝しております。理事会の御決断により諸施設、設備も急速に充実しつつありますし、関西学院からも大きな御支援を頂き感謝の他ありません。後は教職員一同がその附託に込めて研鑽を積み授業改革を進めることと、目的達成のためのチーム・ワークの形成が重大課題です。

おわりになりましたが、聖路加の日野原重明先生は、健やかな人と言うのは心に笑顔を持っている人、考える習慣を持っている人だと言われます。また健康というのは、人が自立していること、心が安らかであることだと言われます。人が人であろうとするならば、自分で自分を育てる自学自習の習慣が大切です。このような健康と生涯学習のための、啓明生、同窓、保護者、教職員にとつて故郷になるような施設が欲しいと思っております。岡山県牛窓町から前島の研修施設貸与の話が参りました。理事会でも御検討下さり、鋭意相談中です。

「見よ、兄妹が共に座っている
なんとという恵み なんとという喜び」という言葉が詩編にあります。啓明関係者、特に金星会の皆様が一丸となつて下さり、女学院改革と再生を御支援下さいますようお願い申し上げます。

啓明の02年度テーマ聖句
「祈りをもって、万事を為す」
いつも喜んでいなさい。
絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙 5章16-18

2002年度「金星会総会」ご案内

日 時：平成14年11月16日(土) 2:00~5:00PM (受付開始1:10PM)
場 所：神 仙 閣 TEL.078-331-1263
(生田神社 西へ100m・JR三宮駅より徒歩5分)
会 費：3,000円(コース料理) 新会員・52、53、54回生 1,000円
プログラム：昼食懇親会 報告事項 アトラクション 福引き
申込み方法：同封のピンク色の申し込みハガキをご返送下さい(出席の方のみ)
申し込み切日：11月6日(水)

出席の返事を出されて、無断欠席の場合、後日、会費をいただきます。
万一不都合が生じた場合は3日前の11月13日(水)までに、下記に必ずご連絡下さい。
渡辺 (078) 842-7178
高瀬 (078) 741-7670

二〇〇三年度母校の創立八十周年及び、関西学院大学継続校である男女共学の啓明学院中学校改組を祝して、総会を左記の如く開催致します。懐かしい恩師を囲み、新旧同窓生相集い、楽しい秋のひとときを過ごそうではございませんか。皆様お誘い合わせの上、多数御参加下さい。

院長退職のご挨拶

前院長 中島 貞夫

本年三月末をもって院長を退職いたしました。在任中は皆様方からいつも暖かいお励ましとご支援を頂き本当にありがとうございました。あらためて感謝いたします。共に厚くお礼を申し上げます。「金星八号」の就任挨拶で述べましたように、私は今理事長を補佐して、ランバス先生ゆかりの啓明・関学両校の絆を強め、関学大に推薦入学できる制度を締結することが任務であると考え、関学の先生方との交渉に専念してまいりました。昨年四月、今理事長の並々ならぬ御尽力により、「学校法人啓明女学院」と学校法人関西学院の提携に関する協定が締結され、さらに武田関西学院理事長のご英断で、現職の関学高中部長・関学理事の要職にあられた尾崎八郎先生を割愛していただき、啓明女学院高の校長としてお迎えすることができました。尾崎校長先生のご就任により、啓明女学院はハード・ソフト両面において目を見張るような構造改革がなされました。この限られた紙面で詳しくご報告できないことが残念です。なお皆様すでにご案内のように、本年四月より男女共学の新しい啓明学院中学校が発足いたしました。

校長退職のご挨拶

前校長 柵津 茂實

私は、昨年三月退職しました。一九五六年（昭和三十一年）啓明に下宿した頃は、戦後の復興が十分でなく、啓明も設備等は不十分ながら、宣教師館のある家族的な温かさがありました。それから、三宮南北旧校舎、須磨新校舎時代、数々の思い出があります。時には苦難の時もありましたが、皆様との出会いによって四十四年の長い教師生活を幸せに過ごさせていただきました。

退職時には、理事会・教職員・同窓生のクラス会・個人・さらに育友会OBの方々にまで、退職記念の会をして頂き、教師冥利に尽きる思いです。ここに啓明ファミリーに心から感謝申し上げます。時々卒業生が啓明チャペルで結婚式をしたり、旧校舎時代の卒業生が新校舎でクラス会をすることがあります。そんな時、旧校舎の面影のある所をみつけ、感懐し、啓明の卒業生でよかったと言ってくれと、私も同じ思いになります。今では、若い人と接する機会が少なく、高齢者との接触で急に体力の衰えを感じます。思い通りにならない自然の営みはどう受けとめていけるか、啓明のよき働きを願っております。



母校だより

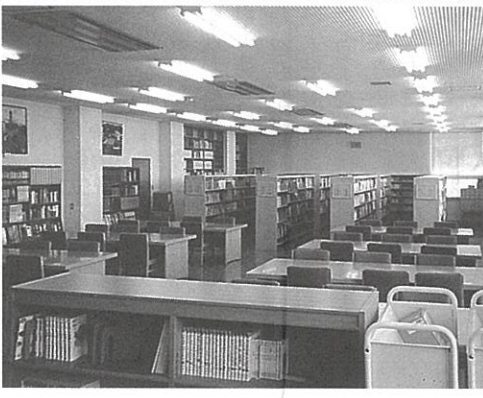
教頭 波戸岡 峰子（十八回生）

奥須磨の緑の丘陵地帯に一九八三年に移転して、早十九年の歳月が経ちました。昨年度より、関西学院高中部長を務められていた尾崎八郎先生を校長に迎え、啓明女学院の伝統を大切に引継ぎ、二十一世紀に期待される人間教育を目指しています。そのために知的好奇心や知的渴望が生まれる環境づくりが急務であると考へ、教科としては、五本の柱、①読書教育 ②英語教育 ③保健体育 ④芸術教育 ⑤生活研究などの教育改革を推進し進

めています。単なる詰め込み教育ではありません。十代の多感な時期を「ゆつくり、じっくり、本物に」と真の知識を持ち、自らが問題発見から解決へとできる事が、生きる力につながるものと確信し、尾崎校長の下、教職員一同が一丸となって頑張っています。ここに新しく社会に期待される啓明学院中学校の歴史が開かれました。下欄に、母校の最新の変貌ぶりをご紹介致します。

図書室

読書教育に不可欠である図書室の施設拡充、増書等が必至であり、昨年より古い書籍の整理を行い、図書室の採光を考え、書棚を少し低くして、すっきりと、明るいイメージに変わりました。何よりも各分野の増書にともない資料を集めております。自ら学ぶ生徒達の真剣な姿が図書室に溢れています。更に質量とも満足出来る状態を目指して、鋭意努力中です。



図書室

食堂

二〇〇一年九月にやっと待望の食堂がオープンしました。毎年、食堂の設置は生徒総会で何度も議題に上がりながら、立ち消えになっていました。卒業生にとっては幻だった食堂が現実となりました。食堂は日棟の一階に創設され、教職員や生徒も感謝しながら利用しています。メニューも豊富で「啓明ランチ」などは安くて、栄養のバランスも取れており、人気があります。食堂は教職員と生徒達の新しいコミュニケーションの場となっております。



食堂

啓明学院中学校の制服

女子のジャンパースカートの由来は従来のものと同じですが、ブレザーはシングルに変わり、左胸にはエンブレムの付いたポケットがあります。夏服はジャンパースカートの暑いとの理由で、白のブラウスに淡いブルーのスカートに変わりました。



右側の院章はバルモア女子英学院時代からの(Palmolive Women's English Institute)の頭文字を組み合わせて作られた従来のものです。



左側の院章は二〇〇二年発足の啓明学院のために新しく考案されたもので、従来の院章に(Men)のMを組み合わせたものです。

院章とエンブレム

エンブレムは、新しい啓明学院中学校の母体となる啓明女学院を「麦の穂」に見立て、そこから新しい実りが生まれ、永遠に栄える願いを込めています。キリストの教えを学び、神と出会う十字架と、校歌の歌詞からの言葉「Trained to serve」(神と人々に仕えるために鍛えられる)が配置されています。そして啓明の象徴であるあけの明星「金星」が平和の意味を持つオリブに抱かれていて、全体に柔らかなデザインになっております。



プール

今年五月から着工していた日棟西側のプール新設工事が終わり、七月十九日に竣工記念礼拝が行われました。プールは二十五メートル七レーンの屋外プールで、横には、清潔な更衣室や温水シャワー、身障者用のトイレや管理室等があり、安全に泳ぐことができます。



プール竣工記念礼拝

昨年まで、中学生は水泳の授業を受けるために、妙法寺駅近くのプールまで行かなければならなかったが今年からは学校の新しいプールで思いきり泳げることになり、生徒達も大喜びです。

サタデーカレッジ 土曜選択講座開講

二〇〇二年度から、月々金曜日の必修授業五日制と、土曜日の自由研究、選択講座を導入しました。土曜講座は学年の枠を越えて、生徒達が目的意識を明確にして、選択しています。生涯学習の原動力を作るための講座として、一、豊かな人生を生かすための学習、二、建学の精神に立脚した人格形成と全人的発達の可能性追求のための学習、三、平常の授業では取り組めない専門家による学習等があります。三十以上に及ぶ講座が並び、一部は保護者にも開放し、親子で楽しく学んでいます。その中には、大学提供のプログラムもあり、甲南大学、甲子園短期大学の教授による「二十一世紀を賢く生きる女性として」のテーマの下、数多くの一〇〇分の講義があります。その他、ジャーナリスト入門講座には、神戸新聞社の記者を、また、ブックライターの入門講座には、専門の方を講師に迎えております。英検準二級以上を目指す生徒達は、パルモア学院で直接指導を受けます。又、必修授業の補充要素を組み入れ、基礎英語、基礎数学、実用パソコン講座、日本礼法を学びながらの邦楽講座、どれも

これも生徒達は普段の授業と違う生き生きとした表情で受講しています。 おやすみなさいタイムカプセル 一〇〇周年まで...

生徒会会長 中村 郁

「サッカー」二度目の全国優勝祝賀会!!

強豪啓明サッカー部は、二〇〇一年八月に栄えある二度目の全国優勝を果たし、同秋に同窓会・育友会共催で六甲荘に於て、後輩達の功績を讃え、多勢の県・市サッカー関係者各位を来賓に迎え、祝賀会を盛大に開催致しました。今後のサッカー部の益々の発展を期待しております。

文化祭で

「金星会喫茶室」を出店

九月二十一日(土)、同窓会は毎年恒例の紅茶とケーキの喫茶室を開き、大勢の卒業生や先生方、父兄や生徒達のご利用を得て、好評の中を終えました。例年の如く、利益金は全額、生徒会に寄付致しました。



創立80周年記念 金星会名簿 2003年8月発刊 御予約お願い!

●予約価格 4,000円

(送料、消費税込み)

●収録内容

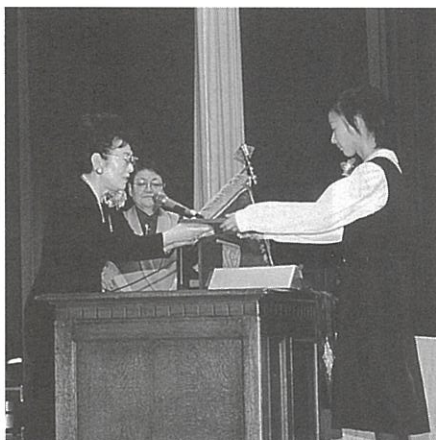
会員・旧職員・現職員名簿
写真頁、氏名索引、その他

●申込方法

同封の名簿作成用ハガキをご確認
のうえお申込みください。

平成四四年に「母校創立七十周年記念版金星会会員名簿」を発行しましたが、十年振りに、来年度創立八十周年を記念して、追加、訂正した会員名簿を作成する運びとなりました。目下鋭意準備中ですが、出来るだけ正確な名簿を作成したいと望んでおります。全卒業生の回生・住所・氏名がコンピュータに永久入力されておりますので、住所変更の御通知あり次第、即時訂正されます。住所を変更されました折にはどうぞ啓明女学院内同窓会宛に葉書又は電話で御一報くださいませ。

さて名簿発行には、調査費、印刷代等膨大な経費がかかります。会員の皆様には積極的に御協力いただきまして、是非とも「金星会名簿」の御予約をお願いいたします。予約なしでのお買い上げは出来ませんので御了承くださいませ。どうぞよろしくお願い申し上げます。



今年度より、金星会は、卒業式で高三の生徒に授与する同窓会賞を設けました。これは、啓明女学院在学中、学業に励み、啓明女学院の建学の精神に基づき、有意義な高校生活を過ごした、優秀な生徒に贈られる賞です。同窓会賞は二つ折りの盾型で、内側は紺色のビロード生地の上に、金色の真鍮板が張られ、左側には、校章と聖句、右側には、氏名と本人を称える英文が彫り込まれていて、大変美しい盾です。

早春の二月二十三日、素晴らしい晴天に恵まれた日、母校に於いて、第五十四回啓明女学院高等学校卒業式が行われました。式は終始厳粛な雰囲気の中、進行し、尾崎八郎校長の式辞の後、卒業証書が一人一人に手渡されました。次に各賞状の授与があり、その中で渡辺カナコ同窓会会長より初めての同窓会賞が虎熊慧子さんと小澤万里子さんの二人に授与されました。本年度は二八三名が卒業し、全員同窓会「金星会」に入会しました。

「同窓会賞」贈られる!



クラス会 あれこれ

イーイー! 啓明

19回生 酒井 條 (旧姓 石田)

平成十四年三月十七日、祢津先生、八杉先生御参加のもと、総勢二十一名が卒業後三十五年振りに啓明女学院に集いました。制服こそ着ていませんが、学生の頃にタイムスリップし、増田先生の号令に合わせて狭い運動場での体育祭の練習、チャペルでのクリスマス、何と言っても北校舎と南校舎を往復しながらの授業が一番大変でしたが、あの頃だからこそ不自由な中での大きな学びが出来たのではと自負しております。

広々として設備の整った素晴らしい校舎には感激!今年から中学校が男女共学となり、母校も益々発展されているように、嬉しく思い誇りに感じます。



19回生クラス会

17回生の同期会を開催して

17回生 才田 章子 (旧姓 箱根)

平成十三年十一月に第三回同期会を開催し出席者は十七名と島先生お一人、小人数ではありましたが、皆様方の近況報告や各テーブルでのお話も弾み、とても和やかで心温まる会となりました。アツという間に予定の時間が過ぎました。会の最後に皆様のご健康と次期開催時には、お



17回生クラス会

同窓生だより

ハワイにて

35回生 長谷川久美子

一九八三年に卒業してからも十九年になります。書類の整理をしていると一九九三年十二月発行の同窓会報が出てきました。加古川の実家から送ってきてもらったのです。

ハワイ島に移ってきてから約十二年、高校卒業後日本を出ましたから、こちらの生活の方が長くなってきました。ハワイは観光業が主な産業なのですが、ありふれた観光ではなく、ハワイをもっと深く色々なアングルから探索する、テーマがあるツアーを扱っています。火山、地質、ハワイ固有の動植物、文化と言葉、星など、ハイキングや登山などを通して学びます。三人の子育て(現在十六才、十才、八才の娘達)と仕事で忙しい毎日を送ってきました。いつの日か高校時代の友達と会いたいものです。

視覚障害者と共に歩む

10回生 山田 烈子 (旧姓 木全)

朗読ボランティアを始めて二十八年になる。交通事故、糖尿病などで中途失明

者が急増する昨今、点字の修得は非常に難しく音から情報を得るために「朗読ボランティア」の需要は高まっている。県下に存在する約六十のボランティアグループが、視覚障害者の読書意欲に応えようと活躍している。その数千二百人を超えるだろう。

私は二十年前から朗読教室の講師として県下広域に出向し指導に専念しているが朗読とは別に「チャリティコンサート」を開催し早や十年になる。家にこもりがちで生の演奏に触れることの少ない目の不自由な方たちの為に、会場へ案内する介助者を確保し、「ふれあい」の場を提供し、収益金は活動の一助にと、目の不自由な方達の団体へ寄付を続けている。朗読と歌を通じて、美しい日本語の継承と共に彼等への支援を深める為にも、皆様のご協力をお願いしたいと思っております。



チャリティーコンサート

ホスピスで叶った

井口さんの願い
49回生 小林さき子

二〇〇〇年四月八日、私たち元三Fは第二回クラス会を行なった。このクラス会は、病と闘っている井口奈穂子さんの願いを叶えるためにも、何とか開催にこぎつけた。

私が井口さんと出会ったのは高校三年の時、その時既に彼女は病魔と闘っていた。卒業後もなくクラス会を行い、二年後の開催を約して別れたが、その後も入院生活を繰り返していた彼女に笑顔を届けるため、何度も病院へ足を運んだ。しかし何か胸騒ぎがして、私の脳裏



井口さんを囲んで

から「クラス会の開催」という言葉が離れることはなかった。そんなある日、突然彼女から電話があった。「思い出す」という、ごく簡単な作業すら困難な状況にあるのを、その言葉の端々から知ることが出来た。

「あのね、同窓会やねんけど・・・」という彼女の言葉を「絶対するから。必ずするから待ってて。」とささげた。彼女が言おうとしたであろう「同窓会は無理」という言葉を聞きたくなかったからである。

その後、いつもお見舞いに行く私達にこやかな笑顔を見せ、逆に元気を与えてくれた彼女がポツリポツリと弱音を吐き始めたのを見て「彼女の笑顔がある内にクラス会を」とより強く思い始めた。

「彼女がずっと楽しみにしていたクラス会。彼女が参加出来るのは最後かもしれない」という思いは、私に車椅子でも入ることの出来る会場を探させた。しかし、容態は急変し、緊急入院することになり、その後すぐホスピスに転院した。彼女の意識のあるうちに三Fの仲間の声を届けたいと思ひ、彼女のお母さんを通して病院側の許可をいただき、西垣先生の呼びかけで急きょホスピスでのクラス会にこぎつけた。突然の呼びかけにもかかわらず、クラスの半数の友が参加してくれた。彼女の笑顔は見られなかったが、私達の呼びかけにゆくり視線を動かして応えようとしてくれた。そして井口さんを囲み、お母さんも交えたクラス会は無事終了した。

これからも行われるであろうクラス会では、いつも一人ひとりが心の中に井口さんの姿を見ることが出来るだろう。

創立80周年記念募金づくり協力のお願い!!

母校発展の為に

貴女の愛と力を!!

同窓会会長 渡邊 カナコ

当会報で御報告しておりますように、母校「啓明」は一大改革期を迎え、建学の精神をさらに生かし、世の為、人の為に未来永劫輝いていく使命達成に燃えております。その実

現には資金面強化が不可欠であり、私達同窓の姉妹も少しでもお役に立たせていただきたく、経済状況の厳しい中ではございますが、皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。少人数だけが頑張るよりも、全同窓生一人一人のご協力が何より大きな光となり、力となり、及ばずながら母校を支える愛の輪となるのです。口数・金額に関係なく御寄付ください

卒業生の皆様へ

理事長 今井 鎮雄

御恩寵のもと、ますますご清栄のこと

けます。貴女の温かい御援助を鶴首お待ちいたしております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。尚、御寄付者芳名は次回会報に掲載させていただきます。

とお願い申し上げます。C・G・ハランド先生がパルモア学院女子部を創立されたのが、一九二三年(大正十二)のことです。以来、パルモア女子英学院、啓明女学院と名前を変えて、二〇〇三年には創立八十周年を迎えることになりました。

時あたかも、全国的な教育改革の嵐のなかで、当学院にも新たな改革の波が押し寄せてまいりました。教育内容の充実、

教育設備の拡充、奨学金制度の拡充、教職員の研修制度の充実なども図っていかねばなりません。これらには、教職員一人ひとりの情熱と努力が必要です。そしてまた、資金的なバックアップも必要になります。

つきましては、何かと出費多く厳しい状況のなか、誠に心苦しいことではございますが、創立八十周年記念募金にご協力を賜りますようお願い申し上げます。啓明女学院が、二十一世紀においても教育使命を果たせますよう、意のあ

るところをお汲み取りいただきまして、ご協力賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

- 1口1万円 (多いほど歓迎!)
- 同封の払込用紙をご使用下さい。
- 出来るだけ、早い時期のご協力が有難いです。

募金事業趣意書

しかし、このような21世紀を見通した新しい教育改革を進めるにあたっては、教師・生徒一丸となつての熱意と努力が必要ですが、財政基盤の安定も不可欠です。授業料の値上げや、県の補助金には限度があり、また、生徒数を増やすことも困難な情勢にあります。

そのような状況の中でも、私たちは新しい啓明学院・啓明女学院の発展を願い、21世紀の教育使命を果たすため、教育プログラムの充実、施設・設備の拡充、生徒の福利厚生への援助の手立てを講じていきたいと願っています。

これからの100年を見すえた長期計画実現に向けて、財政基盤を強化するため、誠に心苦しい限りではありますが、在校生保護者、同窓生、現・旧教職員、および一般有志の団体・企業の方々のご理解とご支援をお願いする次第です。

なにとぞ上記の趣旨をご理解いただき、啓明学院の更なる発展のために、より一層のご援助を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人啓明女学院	理事長	今井 鎮雄
高等学校	校長	尾崎 八郎
中学校	校長	尾崎 田邊
育友会	会長	津 渡
同窓会	会長	渡邊 カナコ

理事	中島 眞夫	ルースグループ
	相浦 和生	河上 民雄
	辻 西村	北村 宗次

監事	吉川 昭二	山根 裕子
----	-------	-------

評議員	上野 賢鶴	高瀬 佳子
	波戸岡 峰子	小細 英太郎
	田村 義和	佐藤 陽子
	藤本 義和	津田 實

教頭	波戸岡 峰子	安福 朗
----	--------	------

事務長	一瀬 隆夫
事務次長	北島 伸二

寄付金のお申込金額について

当方から申し上げますのは甚だ恐縮かつ不躰とは存じますが、下記の金額につきご協力を賜ることができれば幸いです。

◎保護者・保証人の皆様

- ・ 関西学院大学継続 啓明学院中学校の場合
入学後、20万円以上をお願いいたします。
- ・ 啓明女学院中学校・高等学校の場合
1口 1万円、なるべく2口以上のご協力をお願いいたします。

◎同窓生・現・旧教職員・一般有志の皆様

1口 1万円、なるべく2口以上のご協力をお願いいたします。(なお、金額ならびに口数に関係なくお申込いただけます。)

◎団体・法人の皆様

1万円以上のご協力をお願いいたします。

◎下記の取扱銀行、郵便局でお払込ください。

◎取扱銀行 (振込手数料は本院が負担いたします。)

取扱銀行	振込先
三井住友銀行	三宮支店：普通預金
本支店	No.8762911
みなと銀行	横尾支店：普通預金
本支店	No.1542071
口座名義	学校法人 啓明女学院

(注) 同封の払込用紙を使用しない場合は、上記両銀行のいずれかの口座に振込んで下さい。その場合「〇年3月卒業又は〇回生」を必ずご記入下さい。

●この寄付金は任意にお願ひいたしております。



啓明女学院創立80周年記念

啓明女学院はキリスト教主義による人格陶冶と、社会に有用なる人材の養成を目的として設立された学校です。

アメリカ南メソジスト教会より派遣された宣教師W.R.ランバス博士は、1886年(明治19年)11月26日、現在のニッケビル(大丸神戸店東側)の住居で父親のJ.W.ランバスが始めていた夜間学校に「読書館」を開設しました。

この読書館は翌年1月4日多額の寄付をしたアメリカ人牧師を記念してパルモア学院と名付けられました。

その後1889年(明治22年)パルモア学院の昼間部が独立し、男子を対象にして関西学院が原田の森(現在の王子公園)に創設されました。

また、1923年(大正12年)女子部が独立し、山2番35番地(旧北校舎)にパルモア学院女子部として創立され、初代院長にはハランド女史が就任し、2年後の1925年4月よりパルモア女子英学院と名称を変更しました。さらに1940年(昭和15年)ハランド院長が辞任し、名称を「啓明女学院」に変更、1948年(昭和23年)学制改革により「啓明女学院中学校」、「啓明女学院高等学校」となり、現在に至っております。

創立以来78年間、神の守りと、各方面のご支援のもと、17,000名の卒業生を社会に送り出してきました。啓明ファミリーとして創立時の教育理念は脈々と受け継がれ、2003年10月には創立80周年を迎えます。

こうして100年を超える歴史の中で、教育機関としてそれぞれの長を活かし、独自の道を歩み発展してきたランバスゆかりの姉妹校が、21世紀を迎えるにあたり、1998年3月27日にランバス関係姉妹校間協定を結び提携しました。

少子化と教育改革が進む厳しい環境の中、2001年4月26日この協定を強化し、更なる充実と発展をめざして、啓明女学院と関西学院の両学院が提携に関する協定を結び、2002年4月1日から啓明女学院中学校は、10年一貫教育の男女共学の啓明学院中学校に改組することとなりました。

啓明学院中学校は、関西学院大学継続校として6年後には同大学に進学できることとなります。一方、啓明女学院高等学校は、教育内容のさらなる充実を目指し、様々な改革を図りつつ、関西学院大学へは18名の推薦枠を保有しています。

1 事業目標

◎教育施設・設備の充実

- ①教室棟の空調工事 ②食堂・小ホールの新設
- ③パソコン教室の改修および増設
- ④プール・格技場・部室・更衣室の新設
- ⑤第2グラウンドの改修
- ⑥管理棟・特別教室棟の空調工事 ⑦図書室

◎教育内容の充実

- ①土曜日にSaturday College-土曜講座を開講
- ②国語・英語・数学・理科教育の充実 ③読書教育の充実

◎奨学金制度の拡充

◎教職員の研修制度の充実

2 募金目標額

◎2億5千万円

3 募集期間

◎2001年12月1日～2006年11月30日 (5年間)

4 お申込要領

◎お支払いは同封の払込用紙をご使用ください。

郵便局・三井住友、みなと両銀行にて振込めます

5 寄付金に対する減免税措置について

個人の場合 (所得税の減免が受けられます)

ご寄付が本学に入金され次第、本学発行の「寄付金領収書」および「特定公益増進法人であることの証明書写し」(領収書の裏面に印刷)をお送りいたします。

この寄付金(ただし、年間総所得額の100分の25が限度)が1万円を超える場合は、その超えた金額がその年度の課税所得金額から控除されます。

「特定公益増進法人であることの証明書写し」を裏面に印刷してある「寄付金領収書」を添えて、寄付をしていただいた翌年の確定申告期間に所轄税務署に確定申告をして所得税の還付請求をしてください。

個人が本学に対して支出した寄付金の所得控除額

寄付金額 - 1万円 = 寄付金の所得控除額